

事務所長からのメッセージ

- 道北地域の景気は、やや弱めの動きが続いています。5月12日に発表しました「[金融経済概況（道北地区）](#)」では、全体として厳しい状況がみてとれますが、その中でも、いくつか前向きの動きがありますので、ご紹介したいと思います。
- 一つ目は、平成19年度の旭山動物園の入園者数が307万人となり、史上最高の前年度（304万人）をさらに1%上回りました。旭川市や周辺地域の宿泊施設等、そして土産物や関連グッズ業界などでは好影響がもたらされていると考えられます。本年6月には、オオカミの森が完成する予定です。わが国においては絶滅させてしまった動物ですが、これを展示することにより生態系バランスの重要性を学んでほしいとの動物園の願いが込められています。是非、多くの人にとってこうしたことを考えるきっかけとなれば幸いです。
- 二つ目は、旭川市の3月の住宅戸数および床面積が、賃貸物件の伸びを主因として、前年との対比でみて大幅な増加となりました。道北地域全体の住宅投資をみると、昨年の建築基準法改正の影響から依然として完全には脱しきれていませんが、昨年10月をボトムに緩やかながら持ち直してきています。これから、建設シーズンとなりますので、今後の動きに注目したいと思います。
- 三つ目は、普通合板の道外向け出荷量が増加しています。1月頃より道外向け出荷が増えており、今後の動向が注目されます。
- 3月に旭川地区で、そして4月には稚内地区で金融経済懇談会を開催しました。厳しい経済情勢の中でもそれぞれ必死に頑張っておられる企業経営者と意見交換することができました。これからも、地元の生の声を広く聞き、正しい景況判断、そして政策判断に役立てていきたいと思います。

平成 20 年 5 月 12 日

尾家 啓之